

## 今、神崎がアツい！

「神崎の穴観音」を知っていますか？

ある日、目の見えない母親の夢枕に観音様がお立ちになり、娘が母親と共に探し当てたのが穴観音。大きな岩がもたれ合って口を開き、中には観音様3体とお地藏さんが祭られていて、1つの願いを頼めば叶えられると語り継がれています。「観音講」と呼ばれる地域の女性グループが、長年穴観音のお世話を続けて守られてきたそうです。

毎年4月と9月の14日に大祭が行われていますが、お参りに来る人が年々減り、2年前の9月にはなんと55人のうち半分が関係者という状況に。これに危機感を感じた区長の岡本さんは、荒れていた周辺の土地の雑草を刈って駐車場に整備したり、お参りに来た人たちが穴観音の由来が分かるようにチラシを置いたり工夫を重ねたそうです。テレビの情報番組で紹介された影響もあり、1年後の大祭には、なんと約5倍近い250人の人が押し寄せました。

大祭の他にも毎月14日には例祭があります。前日は、

▲由良川鉄橋を走る列車



地域の皆さんがお花を供えたり、掃除をしたりと準備に大忙しでした。「飲み物やせんざいなど毎回おもてなしをしています。観音様のお世話ですが、取り組みを地道に続けたことも賑わいが戻った理由かもしれません。来てくれる人が増えるとやる気も出ます」と観音講の女性が話してくれました。

穴観音から少し東に行くと地元の人には知られた「妙見の滝」があります。滝から海が見える珍しい景色で、ここを整備して誰でも散策できるようにするのが次の目標です。

神崎地区では、穴観音の他に「神崎らっきょうプロジェクト」があります。4年前に遊休農地を畑に戻し、らっきょうの植え付け、収穫から酢漬け体験をするオーナー制度と地域の人たちのアイデアでらっきょうを使った商品開発など、市内外の人を巻き込んだ取り組みです。

今年、(二社) クールジャパン協議会が主催し、100人の外国人審査員が選定されたCOOL JAPAN AWARD2019に「穴観音と由良川鉄橋を走る列車」が選ばれました。これは、日本中に埋



▲穴観音の周辺の掃除をする皆さん

もれている地域資源を外国人目線で引き出し、インバウンドなどの支援をして、地域の活性化に貢献することを目的としています。まさに、外国人が「神崎、クール！」と評価してくれたという事です。

はじめは小さな活動でも、少しずつ地域に広がり認められることで地域に活力が戻る。神崎地域のチャレンジはまだまだ続きます。

「インスタ映えする場所もいけれど、神崎の心癒される自然自体が宝です」と岡本区長。

「夏は海水浴でも賑わう神崎。ぜひ、心癒される自然を感じてください」



▲昨年のらっきょうプロジェクトの様子



▲妙見の滝



▲市外からお参りに来た人々と岡本区長

## 聖火リレー、再び。舞鶴でも実施！

6月1日に東京2020オリンピック聖火リレーのルートが発表され、通過する全国857市区町村の一つに舞鶴市も選ばれました。

走り、舞鶴市で実施されるのは26日。京丹後市→宮津市→舞鶴市→綾部市→福知山市→長岡京市→亀岡市の順で走ります。

なお、前回1964年の東京オリンピックから、聖火リレーが舞鶴市で実施されるのは2回目。

詳細ルートは未定。決まり次第、広報まいつるでもお知らせしていきます。

《スポーツ振興課》



▲1964年に開催された東京オリンピックで聖火リレーが舞鶴で実施された様子(市役所本庁前)

## 舞鶴出身の元オリンピックに魅力を聞いてみた

東京2020オリンピック・パラリンピック大会の開催まで約1年となりました。自国開催ということもあり、日に日にムードが高まっています。来年の5月には聖火リレーが舞鶴市を通過することが決まり、オリ・パラとの関わりを持つ大きなチャンスができました。ぜひ、多くの舞鶴の皆さんにも聖火を見届け、思いや願いを乗せてほしいと思います。直接自分とは関わりがなくても、まるで家族や親せきのように応援したくなるのがオリ・パラではないでしょうか。それは、日の丸を背負って戦う選手の表情や姿に「命を燃やして生きている」ことを感じるからだと思います。「見る」「知る」「支える」。さまざまな形で関わりを持って、多くの人と多くの感動を味わい、日々のエネルギーに変えてください。みなさんにとって素晴らしい東京オリンピック・パラリンピックになることを願っています。



アテネ五輪陸上競技  
4×400mリレー4位入賞  
山口有希さん

「オリンピック」というとメダルや勝負の結果に注目されることが多く、世界一を決める舞台と思っている人も多いかもしれません。しかし、オリンピックは、スポーツを通して心身ともに健康な人間を育み、世界中の人々との交流によってお互いを認め合い、平和な世界を築くことを目的に創設されました。これがオリンピックが平和の祭典といわれるゆえんです。

残念ながらアスリートとして参加できる人は限られていますが「見る」「支える」という形で誰でも関わることは可能です。ウズベキスタンのレスリング・柔道関係者や、アテネからの聖火、そしてアスリートが真剣に己と向き合う姿を通して、ぜひ勝ち負けだけではない「オリンピック」そして「パラリンピック」の魅力に出会ってください。いよいよあと1年、一緒に楽しみましょう。



北京五輪ウエイトリフティング  
女子69kg級6位入賞  
齋藤里香さん